

渡邊久子先生講演会

「災害がもたらしたものの」

〜これまでそしてこれから〜

東日本大震災から十二年

震災と復興による経験と歩みはこの地の記憶として大きく刻まれそしてそれは「日常」となり私たちの生活の中で、今も「共に」生きています

地震、水害、感染症：次々とやってくる新たな災害はここで暮らす私たちの記憶を揺さぶり時にこころや身体にも変化を起こします

震災は、何を残し、何を気づかせてくれたのかそして未来にどうつながっていくのか

私たちは震災のあったこの街でこれからも暮らし、産み、育て、育っていくリアルな体験のある大人とリアルな体験のない子どもたちに震災はどのような形で響きあっていくのでしょうか

これまで、そして、これからの振り返り老若男女、障がいや病気を抱える人もみなこの地で、ともに生きるための知恵と備えを小児精神の専門的立場からお話していただきます



慶應義塾大学医学部を卒業後小児科、精神科、神経内科、精神分析を学び専門は小児精神科医学、精神分析学、乳幼児精神医学。慶應病院小児科常勤講師として、思春期やせ症、被虐待児、自閉症、PTSD（心的外傷後ストレス障害）など、工業化社会の複雑なストレスを生きる子どもの治療にあたる。現在渡邊醫院副院長。いわき放射能市民測定室たらちね顧問。世界乳幼児精神保健学会理事、日本乳幼児精神保健学会会長。東日本大震災後の福島県、バングラデッシュのロヒンギャ難民キャンプ、ロシア侵攻下のウクライナの子ども支援者を支援している。

【渡邊久子先生講演会申込書】

所属等			
連絡先	電話	Email	
参加者	職名等	氏名	その他

FAX
0193-62-7422



こちらのQRコードからもお申込みできます。